時事新報

第千三百三十二號
明治十九年七月二十日　火曜日
舊丙戌六月十九日（辛巳）
日出午前四時五十九分　日入午後七時十二分
月出午後九時三十五分　月入午前八時二十六分
滿潮午前八時十一分　午後八時二十八分
（西曆一千八百八十六年）

時事新報定價

一枚金三錢○一箇月前金六十五錢○三箇月前金一圓八十錢○六箇月前金三圓四十錢○一箇年前金六圓五十錢○郵便税一箇月金廿六錢○一箇年金三圓十二錢○右ニ揭クル各地ニ於テハ該地賣捌所ヨリ郵送料ニテ配達致候（但本社ヨリ直接郵送スルモノハ此限ニアラズ）

●東京●横濱、横須賀●神奈川、藤澤、大磯、小田原、箱根七湯、韮山、修善寺、三嶋、沼津、原、吉原、興津、清水、靜岡、濱松、島田、藤枝●大坂、京都、大津、和歌山●神戸、岡山、笠岡、尾ノ道、福山、廣島、徳島、高知、下ノ關、長崎●名古屋、岐阜、岡崎、豐橋、四日市、桑名、津、松阪、山田●仙臺、福島、二本松、白石、石ノ卷、函館、青森、弘前●高崎、小諸、岩村田、上田●宇都宮、鹿沼、八王子、千住、越ヶ谷、粕壁、杉戸、幸手、加須、前橋●千葉、佐倉、東金、八幡、船橋、市川

其他各地近傍配達便宜ノ場所ハ同レク販賣所ニ申受候

時事新報廣告料（前金）一行ニ付

一行廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上十五日迄	十六日以上
自一行至十行	十錢	八錢	七錢二厘	六錢八厘
自十一行至三十行	九錢	七錢	六錢三厘	五錢九厘五毛
三十一行以上	八錢	六錢五厘	五錢八厘五毛	五錢五厘

時事新報

東海道鐵道

内閣總理大臣伊藤伯は昨日閣令第二十四號を以て中山道鐵道工事は東海道に比して啻に迂路を取るの不利あるのみならず其工費の如きも自ら多きを加へ竣功の期も亦太だ遲遠なるを發見したる旨甲乙號の通り鐵道局長より具狀したるを以て今般中山道鐵道敷設を廢し更に東海道工事を起すに決す依て明治十六年十二月第四十七號布告の中山道鐵道敷設の爲めに募集したる公債の現在殘額は轉して之を東海道鐵道工事に使用すべしとの旨を布告したり（載せて本日の官報欄内に在り）因て其鐵道局長の上申書を見るに其論旨とする所は本月九十兩日の本紙上に載せたる中山東海兩道鐵道緩急論に頗る暗合する所あり我輩の大に滿足する所なり左るにても我政府は明治十六年中山道鐵道を敷設するに決してより中山東海の鐵道斯く迄に利害の明なるに心附かず鐵道局長の所謂聾者に鐘鼓を與へ瞽者に利器を借すに異なるなき工事を成さんとするに汲々たりしが是れは不思議界の一現象として姑く置き足掛け四年後の今日忽ち大に悟る所あり所謂費用に關せず歳月を惜まず利害得失を省みず斷行直前云々の擧に出でず俄然今日に猛省して工事を東海道に轉じたるは我政府が剛愎非を遂るものに非ざるを示すのみならず鐵道の實際必要物と爲りて最早之を一個の消閑具視する能はざるの時勢となりたるを見るに足れり我輩は今回の閣令を讀んで日本の鐵道事業の爲めに大に祝意を表せざるを得ざるなり

抑も我輩が今回の閣令に由りて鐵道を以て東京と京阪間との聯絡を通ずるに先づ東海道よりするを喜ぶは單に此工事の順序其當を得たるを喜ぶのみに非ず今回中山道鐵道工事を東海道に轉じたるの精神を推せば我政府一般の鐵道路に一大變革を生じたるの趣あるを喜ぶなり我輩は過日の紙上に於て鐵道を敷設して交通便を開くに既にある交通を盛にすると未だなき交通を開くとは其間自から緩急の別あり米國西部等往來人甚だ稀なるの地は鐵道を以て其往來を便にすること固より要用なりと雖ども通行人稀なるを以て不便を感ずる者の數も亦隨て少なきが故に稍之を緩にす可きの事情もあれども人烟稠密にして通行繁劇なる場處にては其交通の便不便商賣盛衰の影響に關すると大なるが故に此等の場所にては鐵道の敷設一日も怠る可らず即ち歐米諸國にて鉄道を敷設するに先づ都會を聯絡するの線路を撰ぶ所以あらん云々と陳せしが從來我政府の鉄道署中或は先づなき交通を開くに急なるの趣あり現に鉄道局長の上申書中にも抑も中山道に鉄道を敷設せんと欲する目的は蓋し主義の大なる者あらんか然れ共先づ東京と京阪間との聯絡を通ずるに在り而して沿道從來偏僻の地に運輸の便を與へ兼ねて荒蕪を墾き物産を繁殖せんとするに在り云々とあるを見て其傾向を窺ふべし然るに今中山道の險峻、之を東海道の平夷に比して其工事に緩急あるを發見し險峻を去て平夷に就くと見れば我政府にては從來の經驗大に鉄道署上に悟る所ありて今後日本全國の鉄道敷設に就ても必ず先有る交通商賣を盛にするを專一とせることあらん鉄道署の一進歩と申す可きなり、さて又鉄道局長の上申に據れば中山道鉄道公債として募集せし二千萬圓の中、千五百七十三萬圓は大藏省に現在せるが故に其五百七十三萬圓を以て大垣及半田線直江津及び横川線の殘工事に充つべき金額とし殘額一千萬圓を以て東海道線建設費に充つ可しとの計算なれば更に新公債を起すを要せず大藏省現在金を以て今日より直に其工事に着手するを得べきなり我輩は我政府が其鉄道路を先づ既有の交通商賣を盛にするに決したる以上は東海道は申すも迄もなく日本全國その向きの線路を求めて奮進急行國中東西南北一ト通りの脈路を通ずるの日を急がんことを我輩の特に希望して止まざる所なり

官報

○閣令第二十四號

中山道鐵道工事既ニ前後數里ノ間竣功ヲ告ケ漸ク其中部ニ着手セントスルニ當リ之カ實測ヲ經ルニ其地形タル險峻崎嶇ニシテ之ヲ東海道ノ平夷ニ比スレハ啻ニ迂路ヲ取ルノ不利アルノミナラス其工費ノ如キモ自ラ多キヲ加ヘ隨テ竣功ノ期亦太タ遲速ノ差アルヲ發見シタル旨別紙甲乙號ノ通鐵道局長ヨリ具狀シタルヲ以テ今般中山道鐵道敷設ヲ廢シ更ニ工事ヲ東海道ニ起スニ決定ス依テ明治十六年十二月第四十七號布告ノ中山道鐵道敷設ノ爲ニ募集シタル公債ノ現在額ハ轉シテ之ヲ東海道鐵道工事ニ使用スヘシ

明治十九年七月十九日　內閣總理大臣伯爵伊藤博文

○甲號

中山道鐵道ノ儀ニ付上申

中山道鐵道布設ノ令出シヨリ其建築工事ノ順序ヲ經畫シ之ヲ東西二部ニ分チ高崎大垣ノ兩端ヨリ相進ンテ中央ニ會シ速ニ之ヲ聯絡セント乃チ尾ノ半田港ニ一線ヲ布設シテ資材運搬ノ便ヲ海運ニ藉リ進ンテ名古屋ニ出テ又更ニ越ノ直江津ニ着手シ工事駸々トシテ大ニ進ミ今ヤ將サニ其中部ニ着手セントスルニ先タチ其實測ヲ竣リ別紙圖面ノ線路ヲ得タリ而シテ其經由スヘキ中部ノ地形タル險峻崎嶇抗谷ヲ塡メ山獄ヲ截ル等非常ノ工事前後相踵ク且數里ノ洞道鑽鑿ヲ要スルモノ亦少シトセス而シテ其成功ノ期ヲ計ルニ風雨災害等工事ノ停輟ヲ算セスシテ今後猶七八年ヲ要スヘシ若シ其日子ヲ除却セハ更ニ多キヲ加ヘン既ニシテ其成功ニ及ヒ車輛ヲ通スルニ至テハ線路ノ傾斜峻急（普通極點ハ四十分ノ一トス而ルニ本道ハ三十分ノ一以上ニ至ルモノアリ）ナルカ爲メニ保全整理ノ費用必ス豫想ノ外ニ超過スルモノアラン駛走ノ度モ亦必ス遲緩ナルヘシ嘗テ試ミニ之ヲ測算スルニ或ハ從來海運汽船ノ速度ニ及ハサルモノアランカ果シテ然ラハ實ニ勞シテ功ナク鐵道布設ノ常理ニ背クモノト謂フヘシ

本線路ヲ容易ナラサルハ始メヨリ之ヲ知ルト雖トモ今其實測ヲ得ルニ及ヒ傾斜ノ峻急ナル實ニ度外ニ出ツ若シ其レ之ヲ普通ノ度ニ置カンカ線路隧道亦隨テ之ヲ延長セサルヲ得ス是皆當初意料ノ及ハサル所タリ抑中山道ニ鐵道ヲ布設セント欲スル目的ハ蓋シ主義ノ大ナル者アランカ然レトモ先東京ト京坂間トノ聯絡ヲ通スルニ在リ而シテ沿道從來偏僻ノ地ニ運輸ノ便ヲ與ヘ兼テ荒蕪ヲ墾キ物産ヲ繁殖セントスルニ在リ今測量ノ實蹟ニ據リ之ヲ熟考スルニ線路ノ經由スル所山腹ヲ洞シテ行クニ非レハ必ス窮谷ニ沿フテ走ル之ヲ概言スレハ全部隧道ト稱スルモ亦可ナリ加旃其土地タル磽确不毛ニシテ到處窮郷僻邑ナラサルハナク接近ノ村落ニダモ相往來交通スルノ便少ナク地形ノ險工事ノ難キハ固ヨリ避ケサル所ナリト雖トモ莫大ノ鉅額ヲ費ヤシテ之ヲ經營スルモ竟ニ徒勞ニ歸シ曾テ其功用ヲ見ス併セテ鐵道ノ價格ヲ失フ之ヲ譬フルニ聾者ニ鐘鼓ヲ與ヘ瞽者ニ利器ヲ借スト異ナルコトナシ況ンヤ殖産開墾ノ業固ヨリ言ヲ待タサル所ナリ然ラハ則チ東西兩京ノ聯絡ヲ通スルハ何レノ日ニ在ルヲ知ラス是ヲ以テ退テ其目的ヲ達スルカタメニ之ニ代用スヘキモノヲ求ムレハ則東海道ニ出テサル可ラス則チ東海道ニ出ルモノトセンカ其實況ヲ一應具陳セサルヘカラス嘗テ雇外國工師ノ實踐調査セシ報告書及ヒ頃者局員ヲ派出シテ調査セシメタルモノ等ヲ蒐集シテ之ヲ參互考覈スルニ西部ハ既ニ名古屋ニ達セリ今東京ヨリ名古屋ニ達スルトキハ之ヲ中山道ニ比スレハ凡ソ二十哩ヲ短縮シ而シテ其線路ノ地勢ハ函嶺ノ險峻ナル天龍富士大井等ノ巨川アリト雖トモ之ヲ除クノ外ハ概ネ平坦ニシテ中山道ニ比較スレハ工事ノ難易遙カニ別ナルヲ知ル又其經費ノ點ニ至テ中山道ハ尚一千五百萬圓ヲ要セサルヘカラス東海道ハ一千萬圓ニ上ラスシテ中山道ヨリ長キ線路成就スルヲ得ヘク其比較上ニ於テ孰レモ豫算外ニ出ス成功ヲ奏スヘシ唯恐ル中山道建築成功ノ期ハ今後七八年ヲ要シ費額ハ一千五百萬圓ヲ用ヒテ線路僅カニ七八十里ヲ得其運輸ヲ通スルニ至リ線路曲折上下傾斜ノ度峻急隨テ速力モ亦遲緩ニシテ東京名古屋間二十時ヲ費サン東海道ハ歳月其半ハヲ要セス費額モ亦寡少ニシテ線路殆ント百里ヲ得ヘク傾斜緩慢速力充分ナルヲ以テ東京名古屋ノ間十五時以內ニ達スルヲ得ン其利害得失如斯明瞭ナリ是ヲ以テ目下中山道中部ノ起工ニ臨ミ危懼逡巡頗ル躊躇セサルヲ得ス若シ將タ費用ニ關セス歳月ヲ惜マス得失利害ヲ省ミス斷行直前必ス當初ノ目的ヲ貫徹セントスルハ爲サザルノミ能ハサルニ非ス但恐ル世ノ識者ヲシテ之ヲ觀セシメハ其レ之ヲ得タリト爲ス乎將タ失フト爲サン乎是某ノ最モ恐ルヽ所ナリ顧フニ中山道工事着手以來殆ント二年半其間許多ノ勞費ヲ累ネ今將サニ漸ク緒ニ就ントスルニ及ンテ其方向ヲ變更セサルヲ得サルニ至ル者ハ私心竊カニ慊カラサル所アリト雖トモ其得失ノ係ル所遠且大ナルヲ以テ敢テ衷情ヲ吐露シテ閣裁ヲ請ハントス乃チ御參考ノ爲メニ各事項ヲ擧ケテ兩道ヲ比較シ別表ヲ調表シテ之ヲ附呈ス

右比較上ニ於テ線路建築ノ難易ヲ考フレハ一目シテ東海道ノ優レルヲ知ルヘシ然リト雖トモ兩道採擇ノ如キハ本局ノ奉承スル所ニ非レハ敢テ擬議セス但中山道實檢ノ結果ヲ上申スルニ當リ其經路ノ險惡布設期限ノ彌久ナルトハ豫想外ニ出ルヲ以テ默止スルニ忍ヒス兩道事情ヲ具シテ御覆審ノ料ニ供シ此段上申候也

○乙號

鐵道建設費額概算調書

一金二千萬圓　中山道鐵道公債ヲ以テ募集セラレタル資金

內

金四百二十七萬圓　大垣半田高崎横川及直江津線建設ノタメ領收シタル金額

差引殘額

金千五百七十三萬圓　領收未濟ニシテ大藏省ニ現在スル金額

內

金五百七十三萬圓　大垣半田上田直江津及横川線ノ殘工事ニ充ツヘキ金額

金千萬圓　殘額

但東海道線建設費概算高

右中山道線資金ノ內譯列記ノ如ク大垣半田高崎横川及直江津線ノタメニ既ニ本月迄ニ金四百二十七萬圓ヲ領收セリ今此金額……

五百七十三萬圓……
間ハ既ニ竣功シ……
直江津上田及ヒ……
トス因テ其費額……
ヘシ而シテ猶……
如シ因テ之ヲ考……
竣功ニ至ルマテ……
以テ足レリトス……
直江津及ヒ横川……
ノ慮無ルヘシ及……
以テ東海道線……
次歩ヲ進メハ之……
スシテ餘裕ア……
所ナリ

○尋常師範學校……
は尋常師範學校……
理科大學教授……
高松豐吉に鑛物……
歷史（近世ノ部……

●虎列刺

流行地
神奈川縣横……
大坂府　但シ四區……
京都府　但シ上下……
兵庫縣　但シ神戸……
岡山縣
廣島縣
和歌山縣
愛媛縣
合計　新患……

○流行地外虎……
新舊死亡五十……
舊死亡三人山形……
死亡二人山形……
日新患三人同……
玉縣去る十三……
患三人同死……
死亡十五人……
同死亡三十六……
岐阜縣去る十……
人舊患死亡一……
る八日新患二……
十六日新患一……

雜報

○自治案の……
現出したるは……
の五月十九日……
と以て始めと……
今日愛蘭の不……
愛蘭議院を設立……
治案の起原……
々として全員……
お過ぎざりし……
第ありしての……
お背き奉るみ……
るものにおん……
に係る細事み……
間違ありとし……
せん事を恐る……
欲し殊に王室……
の國會よ我々……
におりしとぞ……
○何ぞ天一坊……
程不思議おみ……